

海洋安全保障情報月報

2009年5月号



目次

2009年5月の主要事象

1. 情報要約

1.1 治安

1.2 軍事

ホット・トピック：中国空母「施琅」（旧名：「ワリヤーグ」）の近況
～ 別のドライ・ドッグに自走移転、最終改修作業へ？ ～

1.3 外交・国際関係

1.4 海運・資源・環境・その他

2. 情報分析

海洋戦略としてのオーストラリア国防白書

本月報は、公表された情報を執筆者が分析・評価し要約・作成したものであり、情報源を括弧書きで表記すると共にインターネットによるリンク先を掲載した。

発行者：秋山昌廣

執筆者：秋元一峰、犬塚 勤、今泉武久、上野英詞、國見昌宏、小谷哲男、友森武久、毛利亜樹、
高田祐子

本書の無断掲載、複写、複製を禁じます。

2009年5月の主要事象

治安：5月入ってもソマリア沖では海賊襲撃事案が後を絶たず、それに伴って、各国海軍戦闘艦が襲撃事案を阻止し、海賊容疑者を拘束する事例も多くなった。拘束された海賊容疑者は取り調べの上、釈放されるか、あるいは協定に従ってケニアに引き渡されてきた。こうした拘束事例の増大に伴って、海賊容疑者を裁く国際法廷設置の可能性についての動きも見られた。例えば、ロシアのメドヴェージェフ大統領は4日、ロシアの検事総長に対して、海賊を裁くための国際法廷設置の可能性について、他国の検察当局と検討するよう指示した。

一方で、海運業界に安全措置の強化を求める動きもあった。米沿岸警備隊は、アデン湾及び「アフリカの角」海域における海賊襲撃事案の高まりに対処するために、海運業界に対して、新たな海洋安全指示を発出した。

ソマリアの海賊の実態についても、新たな発見があった。EU艦隊のジョーンズ総司令官は13日、EU艦隊がこれまで拿捕した海賊の「母船」を調査した結果、船舶を襲撃するに当たって「母船」同士が相互に連絡を取り合っていることが初めて分かった、と語っている。これは重要な発見である。また、海運業界の業界誌、*Fairplay International Shipping Weekly*は、ソマリアの海賊の実態はメディアが報じる日和見の氏族の武装集団とは懸け離れたもので、西側や中東の投資家による合法的なビジネスに支えられているとして、金の流れについてのレポートを掲載した。

また、海賊の活動海域がインド洋にまで広がっていることに対処するため、EU各国は19日、ソマリアの海賊に対する哨戒活動をセイシェル海域まで拡大することに合意した。

その他の事象としては、韓国は26日、北朝鮮の2度目の核実験を受けて、大量破壊兵器の拡散阻止構想（PSI）に正式に参加した。

軍事：米当局者が5日に明らかにしたところによれば、2隻の中国漁船が1日、中国と朝鮮半島の間の黄海の公海上で、米海軍の海洋調査船、USNS *Victorious* に異常接近した。この種の異常接近は、過去数カ月間で5度目である。

米国は、攻撃型原潜（SSN）の60%を2010年までに太平洋に再配置する計画を進めているが、この計画は順調に進展している。2009年末までに、53隻のSSNの内、31隻が太平洋に、22隻が大西洋に展開することになる。

中国南海艦隊は7日、広東省湛江で、ソマリア派遣第1次艦隊の活動と経験を総括する会議を開催した。この艦隊は、中国海軍史上、幾つかの面で初の快挙を達成した。

フランスは26日、アブダビに陸、海、空軍の軍事施設を開設した。フランスがペルシャ湾岸地域に軍事施設を持つのは初めてであると同時に、この施設は、半世紀前に海外の植民地を手放して以来、旧フランス植民地以外に建設された初めての恒久的軍事施設である。

インド海軍は、2カ月間に亘る大西洋への初めての遠洋航海に乗り出した。派遣艦隊は、西部艦隊の3隻の戦闘艦と補給艦1隻で、スエズ運河、地中海を経由して大西洋に出、6英国海軍やフランス海軍と合同演習を実施すると共に、この間、各国港湾への友好訪問も行う。

中国の国産空母建造に関しては、「何時」が最大の焦点だが、その前段階として、中国が2002年3月に大連港に回航して改修を進めていたと見られる、旧ソ連の空母、「ワリヤーク」の動向が注目されていた。以来、7年余を経て、「ワリヤーク」は4月27日、自走して別のドライ・ドックに移転する

という、注目すべき動きがあった。また、「ワリヤグ」は、1年前に「施琅」と改名され、長旗ナンバーは「93」となり、「ワリヤグ」は艦名、「施琅」として中国海軍の制式艦に編入されたと見られる。ホット・トピックとして、「施琅」（「ワリヤグ」）の最近の状況を取り上げた。

オーストラリアのラッド首相は2日、9年ぶりとなる国防白書を発表した。この全140ページにわたる「アジア・太平洋時代のオーストラリア防衛：2030年の兵力」（Defending Australia in the Asia Pacific Century: Force 2030）は、これが完全に履行されれば、オーストラリアの防衛力を1世代にわたってアジア・太平洋地域における最も潜在力の高いものの1つに変革するであろうと見られる。これについては、2.情報分析で取り上げた。

外交・国際関係：大陸棚の外側限界について200カイリを超えて延長する意志を有する沿岸国は、延長申請文書を、1999年5月13日より前にUNCLOS締約国となっている国については、当該期日より10年間、即ち2009年5月12日までに、「国連大陸棚限界委員会」（CLCS）に提出しなければならない。今月、東アジアでは、韓国、中国、ベトナム（単独申請）、マレーシア・ベトナム（合同申請）が延長申請に関する文書を提出した。

海運・資源・環境・その他：パナマ海事庁は、世界的な金融危機のために係留されているパナマ籍船のための特別登録制度を新設した。この制度による登録料は通常の40-50%引きで、登録船舶は乗組員の充足や定期検査を求められない。

インドネシア運輸省によれば、海洋の生態系に危険を及ぼしたとして、10隻の貨物船とタンカーに対して、リアウ諸島海域から退去を命じた。インドネシアはこのほど、海洋の生態系破壊を未然に防止するための指令を発した。

ジャマイカの船籍登録局は、今後4年以内に100万GTの登録を目指す目標を設定した。現在のジャマイカ籍船は、68隻の商船と664隻の小型船舶で、総計26万4,392GTとなっている。欧州の船主は、ジャマイカへの船籍登録に魅力を感じているといわれる。

1. 情報要約

1.1 治安

5月1日「フランス海軍、海賊容疑者3人を釈放」(AFP, May 1, 2009)

フランス海軍は1日、ソマリア人海賊容疑者3人を証拠不十分で釈放した。彼らは4月30日にフランス海軍フリゲート、FS *Nivose* に拘束された。同艦は、別の海賊容疑者11人をケニア当局に引き渡した後、北上中にセイシェル東方420カイリの同国EEZ内で、彼らを拘束した。同艦は、海賊の母船と見られる船から、ノルウェーのケミカル・タンカー、MV *Bow Asir* (3月26日ハイジャック、4月10日解放) のドラム缶13本、ライフボート・スタータープラグ、救命胴衣数着を発見した。容疑者3人は拘束され、同艦に移されていた。フランス海軍はこれまで101人の海賊容疑者を拘束したが、その内、27人は証拠不十分で釈放した。その他は、引き渡し協定を締結した国に引き渡してきた。

5月1日「ポルトガル海軍戦闘艦、海賊容疑者を拘束後、釈放」(Reuters, May 2, 2009)

NATO艦隊に所属するポルトガル海軍のフリゲート、NRP *Corte-Real* は1日、ノルウェーの原油タンカー、MV *Kition* (バハマ籍船) を海賊の襲撃から救出し、19人の海賊を拘束し、その後釈放した。同艦の幹部によれば、救難信号を発信したタンカーから同艦が最も近い約20カイリの海域にあり、直ちに搭載ヘリが発進した。ヘリは、海賊のボートを発見し、母船と見られるダウ船に逃げるボートを追跡した。その後、同艦から発進した高速ボートがダウ船を追跡し、8人の海兵隊員は19人の重武装の海賊が乗ったダウ船を拿捕した。海賊は直ちに降伏した。彼らは、タンカーにも、同艦のヘリや海兵隊員に対しても発砲しなかった。同艦は、本国政府と協議の後、彼らを釈放した。NATO艦隊のOperation Allied Protectorに所属する戦闘艦は、拘束した海賊容疑者の取り扱いについては、当該派遣国の国内法規に従うことになっている。海兵隊員は、ダウ船から4本の高性能爆薬 (the chemical high-explosive P4A)、4丁のAK-47強襲ライフル、ロケット推進擲弾筒1基と11発のロケット推進擲弾を発見した。同艦の幹部によれば、高性能爆薬は1キロ近くで、この種の爆薬が海賊船から発見されたのは初めてである。

5月2日「ソマリアの海賊、パナマ籍船をハイジャック」(Fairplay Daily News, May 4, 2009)

ソマリアの海賊は2日、パナマ籍船の貨物船、MV *Al Mezaan* (2,886DWT) をハイジャックした。該船は、アラブ首長国連邦(UAE)の海運会社の船で、UAEからソマリアの業者に中古車両や砂糖、食用油を輸送中、モガディシュ沖約11カイリの海域でハイジャックされた。

【関連記事】

「ソマリアの海賊、パナマ籍船を解放」(Ecoterra International. May 6, 2009)

ソマリアの海賊は6日、MV *Al Mezaan* を解放した。ハイジャッカーの1人は、ソマリアの業者がチャーターした船であることを確認したので解放した、と語った。身代金は支払われなかった。

5月2日「ソマリアの海賊、マルタ籍船をハイジャック」(Reuters, May 2, 2009)

ソマリアの海賊は2日、セイシエル南西約250カイリの海域で、マルタ籍船でギリシャの海運会社所有のばら積み船、MT *Ariana* (6万9,041DWT) をハイジャックした。該船は、ブラジルから中東に向けて航行中で、積荷は大豆であった。乗組員はウクライナ人24人で、怪我はないという。

MT Ariana (6万9,041DWT)

http://3.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/SfxU8SYDFII/AAAAAAAAAHQU/bWRf4US88Q8/s1600-h/ariana.jpg

5月2日「EU艦隊、現有戦力」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, May 3, 2009)

アデン湾・ソマリア沖で海賊哨戒活動を実施中のEU諸国派遣艦隊、the European Union Naval Force (EUNAVFOR) ATALANTA の5月2日現在の現有戦力は以下の通り。

戦闘艦：スペイン：フリゲート、ESPS *Numancia* (艦隊旗艦)、補給艦、ESPS *Marques De Laenseneda*、ギリシャ：フリゲート、HS *Nikiforos Fokas*、ドイツ：フリゲート、FGS *Rheinland Pfalz*、FGS *Emden*、FGS *Mecklenburg Vorpommern*、補給艦、FGS *Berlin*、イタリア：フリゲート、ITS *Maestrale*、フランス：フリゲート、FS *Commandant Ducuing*、FS *Nivose*、哨戒艇、FS *Albatros*。航空機：スペインとドイツからP-3C Orion 海上哨戒機各1機、フランスからBreguet Atlantic 海上哨戒機1機、Falcon 50 小型海上哨戒機1機。5月半ばからスウェーデンから、コルベット2隻、補給艦1隻が加わる。

5月3日「フランス海軍、11人の海賊容疑者を拘束」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, May 3, 2009)

EU艦隊に所属するフランス海軍のフリゲート、FS *Nivose* は3日、ケニアのモンバサ港東方沖約620カイリの海域で、2隻の小型ボートを曳航した海賊の母船と見られる船を拿捕し、11人の海賊容疑者を拘束した。FS *Nivose* は4月15日にも、11人の海賊容疑者を拘束している。母船と見られる船は、EU艦隊に所属するスペインの哨戒機によって発見され、FS *Nivose* から発進したヘリによって停船させられた。船内から武器が発見されたことから、乗り組んでいた11人が拘束された。

FS *Nivose* に拘束された海賊容疑者

押収された武器

Source: Left: CNN, May 3, and Right:

http://1.bp.blogspot.com/_E-QOnTGFX_o/SgAjlnBcIkI/AAAAAAAAHWE/bTkNthXqf14/s1600-h/argument_trouve_a_bord.jpg

【関連記事】

「フランス、11人の海賊容疑者をケニアに引き渡し」(AFP, May 8, 2009)

フランスは8日、11人の海賊容疑者をケニアに引き渡した。フランスが4月22日にケニアに引き渡した11人は、既にケニアで起訴されている。フランスが拘束した海賊容疑者の多くはケニアかソマリアのプントランド自治区に引き渡されているが、フランス関係船舶の襲撃に関わった15人の容疑者はフランス国内で裁判待ちである。拘束した海賊容疑者の取り扱いに関する法的枠組みが不明確で混乱を来しているが、ケニアは、海軍戦闘艦派遣国の多くと引き渡し協定を結んでいる、域内では唯一の国である。

5月4日「ロシア大統領、国際法廷設置について検討を指示」(RIA Novosti, May 4, 2009)

ロシアのメドベージェフ大統領は4日、ロシアの検事総長に対して、海賊を裁くための国際法廷設置の可能性について、他国の検察当局と検討するよう指示した。4月28日に拘束した29人の海賊容疑者は依然、ロシア海軍の駆逐艦、*Admiral Panteleev* に拘束されたままだが、海賊を起訴する意志を持つアデン湾沿岸諸国が見つからないことから、ロシア国内で起訴される可能性もある。ロシアは、域内諸国と引き渡し協定を結んでいない。

5月5日「ソマリアの海賊、ドイツ船をハイジャック」(Trade Winds, May 6, 2009)

ソマリアの海賊は5日、ソマリアのボサーソ沖約120カイリのアデン湾で、ドイツの海運会社所有の貨物船(アンチグア&バーブーダー籍船)、MV *Victoria* (1万683DWT) をハイジャックした。該船は、米1万トン積載して搭載して、サウジアラビアのジェッダに向けて航行中だった。乗組員11人に怪我はないと見られている。

5月6日「ソマリアの海賊、米艦に発砲」(U.S. Naval Forces Central Command Public Affairs, Press Release, May 7, 2009)

米海軍によれば、ソマリア東岸沖で軍事海上輸送コマンド(MSC)の補給艦、USNS *Lewis & Clark*

(T-AKE-1) は 6 日、海賊のボート 2 隻に約 1 カイリの距離で追尾された。同艦の監視員が 2 隻のボートを視認し、同艦は直ちに速度を上げ、回避行動を取ると共に、保安チームが長距離音響装置 (LRAD) を使って警告した。2 隻のボートは約 2 カイリの距離から同艦に向けて小火器を発砲したが、同艦には届かなかった。同艦は速度を上げたため、海賊のボートは追尾を止めた。同艦が所属する CTF-53 の幹部は、同艦の措置は米海軍が商船と海軍戦闘艦に対して海賊の襲撃回避のために勧告している措置に合致したもので、この海域の商船は同艦の措置を先例とすべきである、としている。

CTF-53 は米第 5 艦隊と連合海軍部隊に対する補給支援を担当しており、USNS *Lewis & Clark* は 2009 年初めには、洋上補給支援基地として CTF-151 に対する補給支援を行った。

5 月 6 日「スペイン海軍補給艦、海賊容疑者 7 人を拘束」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, May 7, 2009)

スペイン海軍補給艦、ESPS *Marques De La Ensenada* は 6 日、アデン湾で 7 人の海賊容疑者を拘束した。7 人の海賊容疑者はギリシャ船を襲撃したが、該船が回避行動を取った時、接近する海賊のボートと衝突し、ボートが沈んだ。その後、7 人の海賊容疑者は同艦に救出され、艦上に拘束された。ギリシャ船には負傷者も損傷もなかった。

The Spanish ministry of defence shows suspected pirates on a capsized boat on May 6, 2009 in the Indian Ocean.

Source: Reuters, May 19, 2009

【関連記事】

「スペイン、13 人の海賊容疑者をケニアに引き渡し」(Ecoterra International, May 16, 2009)

スペイン海軍補給艦、ESPS *Marques De La Ensenada* は 16 日、ケニアのモンバサ港に入港し、13 人の海賊容疑者をケニア当局に引き渡した。これで、ケニアに引き渡された海賊容疑者は 87 人となった。(スペイン海軍は、上記 7 人に加え、翌 7 日にも同じ船舶を襲撃した 7 人の海賊容疑者を拘束していた。内、1 人は負傷して、ジブチで入院中という。)

5月7日「ソマリアの海賊、オランダ船をハイジャック」(Ecoterra International, May 7, 2009)

ソマリアの海賊は7日、オランダの海運会社の貨物船(オランダ領アンティル籍船)、MV *Marathon* (2,579DWT) をアデン湾でハイジャックした。在オランダ・ウクライナ大使館によれば、乗組員は8人で、全てウクライナ人である。該船は、コークスを積んでアデン湾を西航していた。

MV *Marathon* (2,579DWT)

Source: Fairplay Daily News, May 7, 2009

5月9日「ソマリアの海賊、英国船を解放」(Shiptalk, May 10, 2009)

ソマリアの海賊は9日、パナマ籍船で英国の海運会社のばら積み船、MV *Malaspina Castle* (3万2,587DWT) を解放した。身代金は200万米ドルで、ヘリで運ばれた。該船は4月6日にアデン湾でハイジャックされた。乗組員は、16人のベルギー人を含む24人である。

5月9日「ソマリアの海賊、ギリシャ船を解放」(Ecoterra International, May 11, 2009)

ソマリアの海賊は9日、ギリシャの海運会社のケミカル・タンカー(パナマ籍船)、MT *Nipayia* を解放した。該船は3月25日、ソマリア南部沖合約450カイリの海域でハイジャックされた。ロシア人船長と18人のフィリピン人乗組員は無事という。

5月12日「米沿岸警備隊、海運業界に安全措置を指示」(U.S. Department of Homeland Security, U.S. Coast Guard, News Release, May 12, 2009)

米沿岸警備隊が12日に明らかにしたところによれば、沿岸警備隊は、アデン湾及び「アフリカの角」海域における海賊襲撃事案の高まりに対処するために、海運業界に対して、新たな海洋安全指示を発出した。新しい海洋安全指示によれば、米国籍船は、危険海域に入る前に、海賊の襲撃とその後の乗り込みを阻止するための船舶の装備強化と操船方法を含む、海賊対処計画を作成しなければならない。米国籍船はまた、定められた航路を利用し、ジグザグ航法を取り、速度を上げ、海域を哨戒中の各国部隊と協力しなければならない。危険海域を航行中、海賊に対する厳重な監視を行い、搭載している全ての海賊対処装備を稼働状態にしておくのは、全て米国籍船の自己責任である。危険海域を航行する米国籍船は、この指示に定められた基準に合致する安全措置を5月25日までに作成し、沿岸警備隊の承認を得なければならない。

5月13日「海賊母船、相互に通信—EU艦隊総司令官」(AP, May 13, 2009)

EU艦隊のジョーンズ総司令官(British RADM Philip Jones)は13日、EU艦隊がこれまで拿捕した海賊の「母船」を調査した結果、船舶を襲撃するに当たって「母船」同士が相互に連絡を取っていることが初めて分かった、と語った。それによれば、EU艦隊は最近数週間で4隻の「母船」

を拿捕したが、これらは、インド洋の遠海域で行動する海賊の小型高速ボートを支援する、改造したトロール漁船か小型貨物船である。「母船」の調査で判明したことは、相互に位置情報を交換し、彼らが視認した、あるいは襲撃しようとする船舶に関する情報を交換していることである。これは重要な発見である。

また、ジョーンズ総司令官によれば、EU 艦隊の 5 隻の戦闘艦はこれまでに 52 人の海賊容疑者を拘束し、その内 38 人をケニアに引き渡した。EU 艦隊は、NATO 艦隊、米国及びその他の国の派遣戦闘艦と協力して海賊対処に当たっており、アデン湾とインド洋には常時、18~20 隻の戦闘艦が哨戒している。

更に、ジョーンズ総司令官は、ソマリアの海賊が西欧の情報筋から商船の運航情報を得ているとの最近の報道に困惑しているとし、「母船」の調査からそうした証拠は一切なかったと断言した。

5 月 13 日「CTF-151、17 人の海賊容疑者を拘束」(Combined Maritime Forces, Public Affairs, Press Release, May 14, 2009)

CTF-151 の韓国海軍駆逐艦、「文武大王」と米海軍誘導ミサイル駆逐艦、USS *Gettysburg* は 13 日、17 人の海賊容疑者を拘束した。エジプト籍船、MV *Amira* (7 万 4,400DWT) はイエメンのアル・ムカラ南方約 75 カイリの海域で、海賊の襲撃を受けているとの救難信号を発信した。該船は、数発の強襲ライフルの銃弾とロケット推進擲弾 1 発を被弾したが、ほとんど損傷はなかった。海賊のボートからロープが投げられ、乗り込もうとしたが失敗し、海賊は襲撃を断念した。両艦から発進したヘリは、17 人の海賊が乗った「母船」と見られるダウ船を発見した。USS *Gettysburg* からの臨検チームが「母船」に乗り込み、8 丁の強襲ライフル、ロケット推進擲弾筒 1 基、ロケット推進擲弾 1 発を発見し、17 人を拘束し、USS *Gettysburg* に連行した。

拿捕された「母船」と見られるダウ船

Source: Trade Winds, May 14, 2009

5 月 14 日「イラン、2 隻の海軍戦闘艦をソマリア沖に派遣通告」(Payvand Iran News, May 14, 2009)

イランの国連大使は 14 日、国連事務総長に対する書簡で、イランは、海賊対処と自国の商船及び原油タンカー護衛のために、2 隻の海軍戦闘艦をソマリア・アデン湾沖に派遣すると通告した。書簡によれば、イランの戦闘艦は 2 日以内に活動海域に入り、少なくとも 5 カ月間は留まる。

【関連記事】

「イラン、アデン湾を含む公海に6隻の海軍戦闘艦派遣」(MARToob Business, May 26, 2009)

イラン海軍は26日、アデン湾を含む公海に6隻の戦闘艦を派遣した。イラン海軍司令官は、この艦隊の任務は外部からの脅威に対処するイラン海軍の戦力強化を誇示することにある、と語った。イランは、最大2,000キロの射程を持つ新型地对地ミサイル、Sejil-2の発射実験を行ったばかりである。(なお、この記事によれば、6隻の中に、14日にアデン湾に派遣された2隻が含まれるかどうかは不明である。)

5月14日「海賊ビジネスの実態」(Fairplay International Shipping Weekly, May 14, 2009)

海運業界の業界誌、*Fairplay International Shipping Weekly*は、ソマリアの海賊の実態はメディアが報じる日和見的な氏族の武装集団とは懸け離れたもので、西側や中東の投資家による合法的なビジネスに支えられているとして、要旨以下のように報じている。

- ① アフリカ情報の専門家は、追跡は困難としながらも、「ソマリアのビジネスマンは、アラブ首長国連邦や西側の銀行との通商ルートを通して通常のビジネスを行っている。その傍らで行う海賊行為は、合法的なビジネス用資金の調達方法であり、大きな見返りが得られる」と語っている。
- ② ニューヨークの法律事務所の関係者は、「投資家は海賊行為の立役者であり、彼らは、アラブ首長国連邦において襲撃のための資金の調達、ボートの提供や多くの投資を行っている」と見ている。別の関係者は、現金による身代金の支払いが巨額になっており、1隻当たり平均120~200万米ドルに達していることを指摘して、海賊行為は単なるビジネスと見なされている、と語った。英国のシンクタンク、Chatham HouseのRoger Middletonは、ソマリアの海賊は2008年に推定8,000万米ドルを得た、と見ている。
- ③ こうした巨額の資金とこれまでのハイジャックの実績によって、海賊は、襲撃を成功させるために、広範な情報にアクセスすると共に、多くの情報提供者を抱えている。これまでより大型のボートを使うなど、最近数カ月の広い海域における襲撃事案の増大について、先の法律事務所の関係者は、これらは、海賊の背後にいる法執行機関の一部の要員と結託したソマリアのビジネスマンによる資金提供のお陰である、と指摘している。この関係者は、「海賊は自己防衛のための多額の資金を持っており、ボディガードも雇っている。氏族とは良い関係を保ち、判事や警察なども金をもらっている。海賊は、ギャング団並の利害関係者ネットを持っている」と述べた。この関係者はまた、ドバイ当局が、海賊の収入を絶つために、アラブ首長国連邦の銀行に入金される資金の流れに対する監視を強めているようだ、と語った。しかし、先のアフリカ情報の専門家によれば、身代金は広く分散されている。例えば、200万米ドルのほんの一部が銀行に入金され、3分の1がハイジャッカーに渡され、10%がソマリアの地方当局に渡っているという。
- ④ これまでに幾つかの海賊グループの存在が確認されているが、彼らの戦術や目的は同じである。保安関係者によれば、海賊はソマリアの各地域から集まってきており、地域を越えた犯罪ネットワークを組織している地方軍閥に忠誠を誓っている。海賊行為は疲弊したソマリア経済を強化しているため、ソマリアの氏族集団が海賊撲滅を優先事項にすることはなさそうである。

5月15日「スウェーデン海軍戦闘艦、EU艦隊に編入」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, May 16, 2009)

スウェーデン海軍の2隻のコルベット、HMS *Stockholm* と HMS *Malmoe*、補給艦 HMS *Trossoe*

は15日、EU艦隊に編入された。これらの戦闘艦は4月中旬に本国を出航し、3週間かけてドバイに到着し、短期間の訓練を行った。これによって、EU艦隊は、スペイン、フランス、ドイツ、イタリア、ギリシャ及びスウェーデン各国海軍の戦闘艦13隻、海上哨戒域3機編成となった。

5月17日「オーストラリア海軍、アデン湾で海賊の襲撃阻止」(The Australian, May 19, and Trade Winds, May 19, 2009)

オーストラリア海軍のフリゲート、*HMAS Sydney*と*HMAS Ballarat*は17日、アデン湾で2隻の船舶に対する海賊の襲撃を阻止した。最初の襲撃されたのは原油タンカー、*MT Dubai Princess* (11万5,500DWT)で、該船はイエメン南方約170キロの海域で海賊に襲われた。該船の近くにいた*HMAS Sydney*は、救難信号を受信して、ヘリを発進させた。該船の船主であるドバイの海運会社の発表によれば、6人の海賊が乗った小型ボートが該船に接近し、海賊は該船の左舷にロケット推進擲弾筒と機関銃を発射し、該船に15メートルまで接近し数回にわたって乗り込もうとした。該船は速度を上げ、回避行動を取りながら、*HMAS Sydney*に方向に向かった。2隻目の小型ボートも襲撃に加わったが、ヘリが飛来したことで襲撃を止めた。

同じ時間帯に、タンカーの後方6カイリの海域にいた別のコンテナ船、*MV Stella*からの救難信号を受信した*HMAS Ballarat*は、ヘリを発進させ、現場に向かった。海賊は襲撃を止めた。

Pirates close in on *MT Dubai Princess*. *MT Dubai Princess* uses its water hoses to stave off attack.

Pirates attack *MT Dubai Princess* at close quarters

Source: Trade Winds, May 19, 2009 (Pictures from Emarat Maritime and Australian Navy.)

【関連記事】**「オーストラリア、ペルシャ湾岸のフリゲートと哨戒機をソマリア沖に派遣」(AFP, May 29, 2009)**

オーストラリア政府は 29 日、現在ペルシャ湾に派遣されているフリゲート、HMAS *Warramunga* と P-3C 海上哨戒機 1 機を、ソマリア沖で海賊対処活動を実施している CTF-151 に定期的に派遣する、と発表した。

5 月 18 日「ソマリアの海賊、ドイツ船を解放」(Ecoterra International, May 19, 2009)

ソマリアの海賊は 18 日、ドイツの海運会社所有の貨物船 (マルタ籍船)、MV *Patriot* を解放した。該船の乗組員は 17 人で、全員無事である。ドイツの海運会社は解放に先立って、身代金を支払ったと報じられている。

5 月 19 日「EU 艦隊、哨戒海域をセイシェルまで拡大」(AFP, May 19, 2009)

EU 各国は 19 日、ソマリアの海賊に対する哨戒活動をセイシェル海域まで拡大することに合意した。各国派遣艦隊がアデン湾海域に集中するに伴って、海賊は、南部ソマリア沿岸から約 700 カイリも離れたセイシェル諸島にかけてのインド洋にまで、活動海域を拡大した。具体的な内容は発表されていないが、ドイツ、スウェーデン、スペイン、フランス、ギリシャ及びイタリア海軍の戦闘艦から構成される現在の EU 艦隊に加えて、ベルギー、オランダ及びルーマニアの EU 諸国、さらにはノルウェーとスイスも拡大哨戒海域での活動に参加すると見られる。

5 月 19 日「ロシア、拘束した海賊容疑者を第 3 国に引き渡し」(RIA Novosti, May 19, 2009)

ロシアのコルマコフ (Col. Gen. Alexander Kolmakov) 第 1 国防相代理は 19 日、ロシア海軍が拘束した海賊容疑者は第 3 国に引き渡されることになる、と語った。ロシア海軍は 4 月 28 日、29 人の海賊容疑者を拘束し、現在も艦内に収容している。第 1 代理は特定の国名を上げなかったが、ロシアは、域内のどの国とも引き渡し協定を結んでいない。ロシアは、国連決議に従って、米国がニューヨークでソマリアの海賊容疑者を起訴したように、国内で起訴することも可能である。海賊容疑者は、ロシアの国内法では、5~10 年の懲役刑、あるいは 50 万ルーブル (1 万 5,000 米ドル) に処することができる。しかしながら、法律専門家は、法廷での海賊と海賊行為の特定は困難、と見ている。

5 月 22 日「イタリア海軍、海賊容疑者 9 人を拘束」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, May 22, 2009)

EU 艦隊に所属するイタリア海軍のフリゲート、ITS *Maestrale* は 22 日、アデン湾で 9 人の海賊容疑者を拘束した。ITS *Maestrale* は、アデン湾で 2 隻の船舶からの救難信号を受信し、現場海域に向かった。海賊は最初、ギリシャの商船にロケット推進擲弾を発射した後、近くにいたデンマークの商船に攻撃の矛先を変えた。ITS *Maestrale* から発進したヘリが襲撃を阻止するために警告射撃を行った。その後、ITS *Maestrale* の臨検チームが到着し、9 人の海賊容疑者を拘束し、同艦に収容した。

その時の様子

Source: Trade Winds, May 22, 2009

5月25日「ソマリア暫定政府、反政府勢力支配地域の港湾、空港封鎖」(Ecoterra International, May 26, 2009)

ソマリア暫定政府は25日、「25日以降、暫定政府の支配下でない全ての港湾と空港は封鎖される。但し、人道援助目的の空港や港湾の使用は認められる」と発表した。

5月26日「スウェーデン海軍、7人の海賊容疑者を拘束」(Maritime Security Centre, Horn of Africa, Press Release, May 26, 2009)

EU艦隊に所属するスウェーデン海軍のコルベット、HMS *Malmö* は26日、アデン湾でギリシャの貨物船、MV *Antonis* (4万5,100DWT) からの救難信号を受信して、現場海域に向かった。海賊は、小火器とロケット推進擲弾で該船を襲撃していた。HMS *Malmö* は、海賊の小型ボートを視認できる距離から警告射撃を行い、フレアを発射した。停戦した海賊ボートに同艦からのVPD (Vessel Protection Detachment) チームが乗り込み、7人の海賊容疑者を拘束すると共に、武器、GPS装置、乗り込み用のフック、燃料などを発見した。拘束された7人は同艦に収容されて、取り調べを受けている。

MV *Antonis* suffered some superficial bullet-hole damage to the outside of the accommodation tower while one port window was also broken. There were no injuries to the 25 crew onboard MV *Antonis*.

Source: Trade Winds, May 26, 2009

5月26日「韓国、PSIに正式に参加」(AFP, May 26, 2009)

韓国は26日、北朝鮮の2度目の核実験を受けて、大量破壊兵器の拡散阻止構想(PSI)に正式に参加した。北朝鮮は、韓国のPSI参加を、宣戦布告と見なす、と警告していた。韓国は、4月5日の北朝鮮のミサイル発射以降、PSIに参加することを原則的に決定していた。韓国外交通商部の報道官は、韓国政府の決定について、「大量破壊兵器とミサイルの拡散が世界の平和と安全に及ぼす深刻な脅威に対処するため」と説明している。その上で、同報道官は、南北間の相互の領海における貨物船の安全通行に関する協定に言及し、「海事に関する南北間の諸協定は今後も効力を有する」ことを確認した。

5月27日「シンガポールのタグボート、マレーシア東岸で海賊被害」(The Star, May 29, 2009)

シンガポール籍船のタグ&バージ、*Topniche 5*がバージ、*Chrisniche 4*を曳航してマレーシア東岸のメルシン沖のプラウ・アウル島近くの南シナ海を航行中、27日深夜に火器とナイフで武装した海賊に襲撃された。ReCAAPの発表によれば、海賊は、該船に乗り込み、現金や携帯電話、ラップトップPC、時計、PC付属品、小型ラジオ、双眼鏡などの乗組員の持ち物を盗んで、逃走した。9人のインドネシア人乗組員には無事だった。ReCAAPによれば、この1年間、プラウ・アウル島近くの海域で5件の海賊襲撃事案が発生しているが、事案の重大度はいずれもカテゴリ2 (moderately significant) であった。

1.2 軍事

5月1日「中国漁船、黄海で米調査船に異常接近」(CNN, May 5, 2009)

米当局者が5日に明らかにしたところによれば、2隻の中国漁船が1日、中国と朝鮮半島間の黄海の公海上で、米海軍の海洋調査船、USNS *Victorious*に異常接近した。この種の異常接近は、過去数カ月間で5度目である。それによれば、中国漁船は濃霧の中、数時間にわたって、同艦に繰り返し異常接近し、1度は30ヤードまで接近した。

USNS *Victorious*

Source: CNN, May 5, 2009

5月4日「米海軍SSN、太平洋再配置進展」(Honolulu Advertiser, May 4, 2009)

2006年QDR (the 2006 Quadrennial Defense Review) は、攻撃型原潜(SSN)の60%を2010

年までに太平洋に再配置する計画を明らかにしたが、この計画は順調に進展している。*Los Angeles* 級 SSN の USS *Jacksonville* が 4 月 3 日にパールハーバーに到着し、7 月と秋にパールハーバーに到着予定の *Virginia* 級 SSN、USS *Hawaii* と USS *Texas* を加えて、2009 年末までに、53 隻の SSN の内、31 隻が太平洋に、22 隻が大西洋に展開することになる。2007 年以來の 2 年間で、少なくとも 7 隻の SSN—*Seawolf* 級 2 隻、*Los Angeles* 級 3 隻、*Virginia* 級 2 隻—が太平洋に再配置されることになる。更に多くの新型の *Virginia* 級が、建造され次第、パールハーバーに配備されることになっている。現在、*Los Angeles* 級 3 隻がグアムに、6 隻がカリフォルニア州に(今夏 7 隻目の USS *Albuquerque* が加わる) 配備され、*Seawolf* 級 3 隻全てがワシントン州ブレマートンに配備されている。更に、8 隻の *Ohio* 級 SSBN が、トマホーク巡航ミサイル搭載艦に改装された 2 隻と共に、同州のピューージェット・サウンドに配備されている。

5 月 6 日「ロシア、艦載機パイロット訓練施設を計画」(Barents Observer, May 6, 2009)

ロシアは、艦載機パイロット訓練施設を新設する計画を明らかにした。新施設は、アゾフ海に近いクラスノダールにある古い飛行場に建設される。この新設計画は、2025 年までに 5~6 隻の空母を建造するロシアの計画を裏付けるものである。空母建造計画については、財政面で疑問視されていた。ロシアの唯一の現有空母、北洋艦隊の、*Admiral Kuznetsov* の艦載機パイロットはウクライナのクリミアにある訓練センターに派遣されていたが、最近の両国関係から訓練計画は廃棄されたといわれる。一部情報によれば、ウクライナは、訓練施設を中国にレンタルする計画であるという。建設計画は既に、メドベージェフ大統領に承認されており、2010 年に始まり、2 年間で完了する。

5 月 7 日「中国南海艦隊、ソマリア派遣第 1 次艦隊の活動総括会議開催」(PLA Daily, May 8, 2009)

中国南海艦隊は 7 日、広東省湛江で、ソマリア派遣第 1 次艦隊の活動と経験を総括する会議を開催した。第 1 次派遣艦隊は、誘導ミサイル駆逐艦、「武漢」と「海口」、総合補給艦、「微山湖」から構成され、2008 年 12 月 28 日に海南省三亚を出港し、4 月 29 日に 124 日間に及ぶ任務を終えて帰港した。この艦隊は、中国海軍史上、幾つかの面で初の快挙を達成した。

- ① 海外における任務のために、初めて、戦闘艦、搭載ヘリ及び特殊部隊からなる任務部隊が編成された。
- ② 任務部隊は海外における任務遂行の全行程を通じて何処の国の港にも寄港することなく、中国海軍の最長連続航行期間、最長航行距離、更には艦載ヘリの出撃回数と飛行時間の最長記録を達成した。
- ③ 中国海軍にとって初めて、同一海域において他国海軍と共にエスコート任務を遂行し、戦闘艦同士が相互訪問し、情報協力を実施した。
- ④ 本国から遠く離れた未知の海域における、連続的かつ高い頻度の兵站及び装備補給を実施するための艦隊編成は、中国海軍にとって初めてであった。

備考：中国の 5 月 19 日付けの解放軍報電子版によれば、南京軍区杭州療養院は、第 1 次ソマリア派遣艦隊の 12 人の艦載ヘリの療養を受け入れた。病院は、彼らの任務の特性に注目し、20 人余りの専門家を組織し、身体面、心理面及び航空生理面から健康を回復する訓練計画を制定した。

5月11日「ロシア、2009年末までにインドにSSNを貸与へ」(Zee News, May 11, 2009)

ロシアは2009年末までに、インドに *Akula* 級 SSN (攻撃型原潜) を貸与すると見られる。貸与予定の *Akula* 級 SSN は2008年11月8日に海上公試中に事故を起こし、少なくとも死者20人、負傷者21人の大惨事となった。Amur Shipyard によれば、*Akula* 級 SSN は修理が完了し、最終的な海上公試を実施し、2009年末までにインドに引き渡すことになろうという。ロシアは、2009年6月に10年間の期限で、*Akula* 級 SSN をインドに貸与する計画であったが、事故により遅れていた。

5月19日「インド海軍、6隻目の戦車揚陸艦就役へ」(newkerala, May 18, 2009)

インド海軍は19日、6隻目の戦車揚陸艦 (LST) を就役させる。この LST、INS *Airavat* は、最大10両の戦車、11両の戦闘車両及び500人の兵員を搭載でき、洋上において最大45日間の作戦行動が可能である。INS *Airavat* は、東岸のビシャカパトナムに配備される。

5月26日「フランス、アブダビに軍事施設を開設」(The New York Times, May 26, 2009)

フランスは26日、アブダビに陸、海、空軍の軍事施設を開設した。開所式には、サルコジ大統領が出席し、「アブダビにおけるフランスの恒久的な軍事施設は、大国としてのフランスが域内の緊密なパートナー諸国と共に果たす責任を象徴するものである」と述べた。フランスがペルシャ湾岸地域に軍事施設を持つのは初めてであると同時に、この施設は、半世紀前に海外の植民地を手放して以来、旧フランス植民地以外に建設された初めての恒久的な軍事施設である。この軍事施設は、空軍施設がアラブ首長国連邦の Al Dhafra 空軍基地に置かれ、Mirage 及び Rafale 戦闘機の運用が可能である。海軍施設は Mina Zayed 港に置かれ、空母を除く海軍の全ての艦艇が停泊できる。また、空母は近接の港に停泊可能である。陸軍施設は Zayed におかれ、市街戦訓練施設及び情報収集施設として利用される。これらの施設には最終的に、500人余の軍要員が駐留することになる。

この地域におけるフランスの主たる軍事基地は、紅海の出入り口にある旧植民地、ジブチにあるが、サルコジ大統領によれば、アブダビの新施設の開設は、海賊対処活動のハブとなっているジブチの基地におけるフランスのプレゼンスに影響を及ぼさない。

5月29日「インド艦隊、大西洋に初の遠洋航海」(newkerala.com, May 29, 2009)

インド海軍は、2カ月間に亘る大西洋への初めての遠洋航海に乗り出した。派遣艦隊は、西部艦隊の3隻の戦闘艦と補給艦1隻で、誘導ミサイル駆逐艦、INS *Delhi*、誘導ミサイルフリゲート、INS *Beas*、INS *Brahmaputra*、及び補給艦、INS *Aditya* からなる。インド艦隊は、スエズ運河、地中海を経由して大西洋に出、6月20日～25日に英国海軍と Konkan 演習、6月30日～7月4日にフランス海軍と Varuna 演習をそれぞれ実施する。この間、各国港湾への友好訪問も行う。

 **ホット・トピック** **中国空母、「施琅」(旧名:「ワリヤーグ」)の近況
～別のドライ・ドックに自走移転、最終改修作業へ?～**

中国の国産空母建造に関しては、「何時」が最大の焦点だが、その前段階として、中国が2002年3月に大連港に回航して改修を進めていたと見られる、旧ソ連の空母、「ワリヤーグ」の動向が注目されていた。以来、7年余を経て、「ワリヤーグ」は4月27日、自走して別のドライ・ドックに移転するという、注目すべき動きがあった。以下は、関連記事と写真から、「ワリヤーグ」の最近の状況を取り纏めたものである。

1. 別のドライ・ドックに自走移転

「ワリヤーグ」(Varyag)は、旧ソ連の空母「クズネツオフ」(Kuznetsov)級(6万7,500トン)の2番艦である。米海軍空母のようなスチーム・カタパルトは装備しておらず、スキージャンプ甲板とアングルド・デッキを備えた空母である。それでも、最大36機のSu-33と16機のヘリが搭載可能で、2,500トンの航空燃料を積載でき、500～1,000ソーティの航空機運用が可能である。1番艦の「クズネツオフ」は、ロシアが現在、地中海で運用中である。同級は2隻のみである。(Strategic Page, April 30, 2009)

「ワリヤーグ」は、1年前に「施琅」(Shi Lang)と改名され(以下「施琅」)、長旗ナンバー(the pennant number)は「93」となった。(Strategic Page, April 30, 2009)このことは、「ワリヤーグ」が艦名、「施琅」として中国海軍の制式艦に編入されたことを意味すると見られる。因みに、「施琅」とは、明朝末生まれの清朝の武将で、1683年に清朝第4代皇帝、康熙帝の命を受けて台湾を平定したことで知られ、意味深長な艦名である。

2003年3月以来、大連港で改修工事を進めていた「施琅」は、2009年4月27日、約2カイリ離れたドライ・ドックに自走して移転した。以下は、その時の様子である。

Source: Varyag World.com, HP

2. 最終改修作業へ?

以下の写真は、ドライ・ドックに入渠後の「施琅」である。このドックには3基の大型クレーンと2基のエレベーターらしき装置が「施琅」の側に設置されており、重装備品の取り付けを含む、本格

的な最終改修作業の開始を示唆している。

Source: Information Dissemination Blogspot, May 23, 2009

Elevators? Yes, three lifts machine were installed beside the Varyag Carrier, which is being repaired in Dalian Shipyard. This change may indicate that the overhaul of Varyag for PLA Navy Aviation Troops Training is being speeded and some required systems, such as electronic devices, power system and so no, will be added in this once abandoned by Russia.

Source: China Defense Mashup, May 20, 2009 (include the caption)

下図に見るように、「施琅」は、スキージャンプ甲板とアングルド・デッキを有し、STOBAR 機 (Short Take Off But Arrested Recovery) の運用が可能な空母である。(インドが建造中の国産空母もこの型式である。)

http://blogs.yahoo.co.jp/rybachii/GALLERY/show_image_v2.html?id=http://img.blogs.yahoo.co.jp/ybi/1/c7/c4/rybachii/folder/1002845/img_1002845_38735112_1?1242867863

従って、「施琅」から艦載機を運用するためには、アレスティング・フックを甲板上に取り付ける必要がある。ドライ・ドックにおける今後の「施琅」の改修作業で、アレスティング・フックが取り付けられるかどうか、注目点の1つである。中国は既に、ロシアから艦載機の着艦システムを購入していると思われる。(OPRF 海洋安全保障情報月報 2007 年 7 月号 1.2 軍事参照。) この項の上の写真にある赤線で囲った部分を指す中国語は「これは何?」といったほどの意だが、こうした周囲に置かれた部品が今後、何処にどのように取り付けられるか注目される場所である。

もう1つの注目点は、航洋用の本格的なメイン・エンジンを装備するかどうかである。中国海軍が当面、「施琅」を訓練用として使用するにしても、あるいは本格的に運用するにしても、メイン・エンジンの装備が不可欠である。この点に関して、ある専門家は、ウクライナとの関係に注目している。ウクライナは、中国との間で、軍事協力を進めている。「ワリヤグ」が建造されたのはウクライナの造船所であり、ウクライナは、旧ソ連時代に空母建造の経験を持っており、「施琅」の推進システムについても売却できると見ている。既に、中国の最新の誘導ミサイル駆逐艦は、ウクライナの Zorya 社のガスタービン・エンジンを使用している。(Information Dissemination Blogspot, May 8, 2009)

3. 「施琅」の今後

「施琅」が今後、どのように運用されるかは不明だが、空母の主たる機能は洋上での航空機運用のプラットフォームである。この点で、空母を戦力化するためには、艦載機の選定とそのパイロットの訓練が不可欠である。

この面でも中国の準備が進展しているようである。2008 年 9 月 15 日付の英誌、*Jane's Defence Weekly* (電子版) は、中国海軍が空母艦載機のパイロット訓練を開始した、と報じている。それによれば、大連にある海軍アカデミー (the Chinese People's Liberation Army Dalian Naval Academy: DNA) で、50 人の学生に対する訓練計画を開始され、学生は、4 年間の訓練中、座学として、エンジニアリング、シーマンシップ及び飛行システムに関する理論などについて学び、その後、まず陸上での飛行訓練、そして最終的には洋上での飛行訓練を受講するという。(OPRF 海洋安全保障情報月報 2008 年 9 月号 1.2 軍事参照。)

ウクライナはまた、艦載機訓練の面でも中国を支援しているようである。2008年12月5日付のUPI電によれば、中国は2006年10月以来、ウクライナ南部の施設で海軍の空母パイロットを訓練してきたという。(OPRF 海洋安全保障情報月報 2008年12月号 1.2 軍事参照。)

こうした艦載機パイロットの訓練に関する情報から判断すれば、中国は、本格的空母の建造、配備に備えて、「施琅」を当面、訓練用プラットフォームとして、艦載機パイロット訓練の仕上げに使用する可能性が高いと見られる。

しかしながら、中国海軍が空母の運用に当たって直面する難題の1つは、適当な艦載機がないことである。第3世代の国産機、J-10、J-11は、艦載機として運用するためには、機体構造を大幅に改良する必要があるといわれる。一方、中国がロシアから購入を期待していた、空母搭載戦闘機、Su-33について、ロシアは最近、中国がこれをベースにより安価な輸出用戦闘機を生産する可能性を懸念して拒否したという。ロシア国防省筋は、売却拒否は中国が知的財産協定に違反してSu-27Kの自国産コピーを生産したためであることを確認した、と報じられた。(RIA Novosti, April 10, 2009)

以上のような、艦載機パイロットの訓練に関する情報や、艦載機としてSu-33に関心を示していることから、近い将来に建造着手が予想されている国産空母も、STOBAR機を運用する、スキージャンプ甲板とアングルド・デッキを備えた、「施琅」と同型の空母になると見られる。

1.3 外交・国際関係

5月6日「マレーシア・ベトナム、南シナ海の大陸棚外側限界の延長に関する合同文書提出」(Commission on the Limits of the Continental Shelf HP, May 8, 2009)

マレーシアとベトナムは6日、南シナ海南部の大陸棚外側限界について、200カイリを超えて延伸するための文書を、国連大陸棚限界委員会(CLCS)に合同で提出した。合同文書は、2009年8月10日～9月11日のCLCSの審議議題として取り上げられる。

備考：両国の合同提出文書は以下を参照；

http://www.un.org/Depts/los/clcs_new/submissions_files/mysvnm33_09/mys_vnm2009executivesummary.pdf

5月7日「ベトナム、南シナ海の大陸棚外側限界の延長に関する合同文書提出」(Commission on the Limits of the Continental Shelf HP, May 7, 2009)

ベトナムは7日、南シナ海の北部海域の大陸棚外側限界の延長について、200カイリを超えて延伸するための文書を、国連大陸棚限界委員会(CLCS)に提出した。この文書は、“a partial submission”で、今後、南シナ海中央部に関する延伸申請文書が提出されることになっている。

備考：ベトナムの申請文書は以下を参照：

http://www.un.org/Depts/los/clcs_new/submissions_files/vnm37_09/vnm2009n_executivesummary.pdf

以下は、申請文書に示された地図である。

【関連記事 1】

「中国、ベトナムの申請に反論」(Xinhua, May 8, 2009)

中国外交部報道官は8日、ベトナムの大陸棚外側限界の延長申請に対して、南シナ海に対する中国の主権、主権的権利及び管轄権を侵害するもので、不法かつ無効である、と反論した。同報道官は、中国は南沙諸島と西沙諸島及びそれらの周辺海域に対して議論の余地のない主権を有しており、またこの海域の海底と海底資源に対する主権的権利と管轄権を有している、と強調した。同報道官によれば、中国国連代表部は、潘基文事務総長に対して文書を提出し、その中でCLCSに対してベトナムの申請を審議しないよう求めた。

【関連記事 2】**「ベトナム、中国に反駁」(Nhan Dan, May 8, 2009)**

ベトナム外務省報道官は、中国が提出した文書と添付された地図は、東海（南シナ海）の一部に対するベトナムの主権、主権的権利及び管轄権を全面的に侵害するものである、と反駁した。更に同報道官は、中国の主張には、何らの法的、歴史的証拠もなく、全く非現実的であるとし、ベトナムは十分な歴史的証拠と法的根拠を持っている、と強調した。

5月11日「中国、東シナ海の大陸棚外側限界の延長に関する予備的文書を提出」(Xinhua, May 11, 2009)

中国外交部報道官は11日、200カイリを超える大陸棚外側の限界の延伸について、国連大陸棚限界委員会（CLCS）に初歩的な情報を提出したことを明らかにした。中国が提出した文書には、東シナ海の一部の海域について200カイリを超える大陸棚外側の限界の設定が含まれている。外交部報道官は、中国は南シナ海の諸島やその周辺海域に対して、議論の余地のない主権と主権的権利及び管轄権を有していると強調し、中国は今後、他の海域での200カイリを超える大陸棚外側の限界の延伸に関する文書を提出する権利を保留している、と述べた。

備考：中国の提出文書については以下を参照；

http://www.un.org/Depts/los/clcs_new/submissions_files/preliminary/chn2009preliminaryin_formation_english.pdf

以下は、提出文書に示された関連地図である。

備考：5月5日付け中国外交部 HP によれば、外交部報道官は5日の会見で、外交部に「国境・海洋局」が新設されたことを明らかにした。同報道官によれば、「国境・海洋局」（中国語での略称は「辺海司」）の所掌事務は以下の通り；

- ① 陸上・海洋国境の画定に関連する外交政策、指導、海洋対外仕事を協調させること
- ② 隣国との陸地の国境画定、合同検査などの管理業務
- ③ 国境に関連する事務である領土、地図、地名などの対外案件の処理
- ④ 海洋における境界画定、共同開発などの関連する外交工作

5月11日「ソロモン諸島、大陸棚外側限界の延長申請」(Solomon Star, May 11, 2009)

ソロモン諸島はこのほど、国連大陸棚限界委員会（CLCS）に4件の大陸棚外側限界の延伸申請を行った。ソロモン諸島の延伸申請締め切りは5月13日である。4件中3件は合同申請である。3国による合同申請は、ソロモン諸島・フィジー・バヌアツの3国による北部フィジー海盆に関する延伸申請、及びソロモン諸島・パプアニューギニア・ミクロネシア連邦の3国によるオントン・ジャワ海嶺に関する延伸申請である。ソロモン諸島とフィジーの2国による合同申請はシャーロット・バンクに関する延伸申請である。ソロモン諸島の単独申請は、レンネル海嶺に関する延伸申請である。

備考：関係申請書及び地図については以下を参照；

http://www.un.org/Depts/los/clcs_new/submissions_files/preliminary/fji_2009_preliminaryinfo.pdf

http://www.un.org/Depts/los/clcs_new/submissions_files/preliminary/fji_slb_2009_preliminaryinfo.pdf

http://www.un.org/Depts/los/clcs_new/submissions_files/preliminary/fji_slb_2009_figure.pdf

http://www.un.org/Depts/los/clcs_new/submissions_files/preliminary/fji_slb_vut_2009_preliminaryinfo.pdf

http://www.un.org/Depts/los/clcs_new/submissions_files/preliminary/fji_slb_vut_2009_figure.pdf

5月12日「韓国、東シナ海の大陸棚外側限界の延長に関する予備的文書を提出」(JoongAng Daily, May 13, 2009)

韓国外交通商部は12日、大陸棚外側限界の延長に関する予備的文書を国連大陸棚限界委員会（CLCS）に提出した、と発表した。外交通商部が公表した地図によれば、韓国の大陸棚外側限界は、沖縄近辺まで延びている。外交通商部は、今回の文書は予備的なものであり、後日、より詳細で包括的なデータを提出するとしている。

備考：韓国の提出文書については以下を参照；

http://www.un.org/Depts/los/clcs_new/submissions_files/preliminary/kor_2009preliminaryinformation.pdf

以下は、提出文書に示された関連地図である。

5月15日「中国、西沙諸島に漁業監視船を新たに派遣」(China Daily, May 15, 2009)

中国は、広東省最大の漁業監視船、「中国漁政 44183」を新たに西沙諸島に派遣した。同船は17日に西沙諸島に到着する。「中国漁政 44183」は、3月に派遣された「中国漁政 311」と同様に、約半月間、中国のEEZを哨戒する。同船は、途中、海南省三亞に寄港した後、永興島 (Yongxing Island or Woody Island) に向かう。

「中国漁政 44183」

Source: China Daily, May 15, 2009

1.4 海運・資源・環境・その他

5月8日「パナマ、係留船舶のための船籍登録制度新設」(Maritime Global Net, May 8, 2009)

パナマ海事庁 (the Panama Maritime Authority: AMP) は、世界的な金融危機のために係留されているパナマ籍船のための特別登録制度を新設した。この制度による登録料は通常の40-50%引きで、登録船舶は乗組員の充足や定期検査を求められない。この制度は、期間1年間で、更に1年間の延長が可能である。特別登録制度を規定した、2009年2月9日の決議106-09は、この制度で登録された船舶は運航できないこと、及び係留港湾の環境や安全に危険を及ぼさないために最小限度の安全措施や汚染防止措置が要請されることを、船主や運用船社に対して警告している。AMPによれば、2009年3月末現在で、パナマ籍船は8,487隻で、世界1である。

5月18日「インドネシア、海洋環境保護を強化」(Fairplay Daily News, May 18, 2009)

インドネシア運輸省によれば、海洋の生態系に危険を及ぼしたとして、10隻の貨物船とタンカーに対して、リアウ諸島海域から退去を命じた。インドネシアはこのほど、海洋の生態系破壊を未然に防止するための指令を発した。運輸省当局者によれば、船舶の積荷が危険物であれば、港湾当局は該船に退去を求めることができる。この当局者は、多くの船舶が同国に無許可で危険物を運び込み、産業廃棄物を見境なく投棄することで環境劣化を引き起こしている、と非難した。

5月26日「ジャマイカ籍船、4年以内に100万GT登録を目標」(Maritime Global Net, May 26, 2009)

ジャマイカの船籍登録局は、今後4年以内に100万GTの登録を目指す目標を設定した。現在のジャマイカ籍船は、68隻の商船と664隻の小型船舶で、総計26万4,392GTとなっている。欧州の船主は、ジャマイカへの船籍登録に魅力を感じているといわれる。2009年第1四半期にドイツの海運会社が6隻のコンテナ船を登録したことで、3万5,669GTの増加となった。船籍登録局のドイツ担当者は、「これがドイツの船主との緊密な関係の始まりと期待しており、今年更に登録が増える」と語っている。

2. 情報分析

海洋戦略としてのオーストラリア国防白書

オーストラリアのケビン・ラッド首相は5月2日、シドニーのガーデン・アイランド海軍基地に停泊する HMAS *Stuart* の艦上で9年ぶりとなる国防白書（Defence White Paper 2009）を発表した。この全140ページにわたる「アジア・太平洋時代のオーストラリア防衛：2030年の戦力」（Defending Australia in the Asia Pacific Century: Force 2030）¹は、これが完全に履行されれば、オーストラリアの防衛力を1世代にわたってアジア・太平洋地域における最も潜在力の高いものの1つに変革するであろう。

オーストラリアの国防白書は年次報告ではなく、新たな国防政策を提示したり、防衛力整備計画を見直したりする場合に出される。今回の白書は、この9年間の情勢の変化を踏まえ、オーストラリアが直面する「不確実な将来の戦略的挑戦」に備えるため、国防基盤を如何に強化していくかについて、ラッド政権の考え方を説明したものである。特に今回の白書は、「2030年の戦力」を開発するための政府の計画について、そのために必要な国防投資を含めて、詳細に説明している。以下は、同白書の特徴を取り纏めたものである。

1. 戦略環境に対する認識

白書は、オーストラリア政府が、国際関係における力の配分の変化とそれに付随する「多極化」世界への移行に起因する、「不確実な将来の戦略的挑戦」にどのように対応していくかを示している。白書は、前提としての将来の世界情勢を以下のように想定している。① 米国は今後も圧倒的な国家でありつづけるが、世界の特定の地域の問題（たとえば中東）にかかりつきりとなり、アジア・太平洋の問題では同盟国や友好国からのより積極的な協力を必要とするだろう。② 一方、中国は2020年には米国を抜いて世界最大の経済大国となり、2030年までに「他を寄せつけない」アジア最強の軍事力を備える。

そして白書は、オーストラリアを取り巻く戦略環境を次のように分析している。① 近年のアジアでの軍事力の近代化によって、同地域には新鋭の戦闘機や潜水艦など、より高性能な軍事力が広まった²。② 昨今の国際的金融危機によって地域の軍拡計画は減速するだろうが、中国は例外と見られる。中国の軍拡、特に兵力投射能力の増強は、透明性を欠いたままでは周辺諸国に不安と猜疑心を生み、結果として地域を不安定化させるだろう。③ 加えて、新たな脅威としてサイバー攻撃、宇宙戦、テロリストによる大量破壊兵器の入手などがある。④ その他の非伝統的安全保障問題（世界規模の人口構造の変化や人口移動、環境破壊や資源不足、公衆衛生、国際犯罪）は安全保障環境をより複雑化させている。⑤ さらに国家間戦争より、国内紛争の方が防衛計画立案に当たって重要になっている。

¹ 白書の全文は以下を参照；

http://www.defence.gov.au/whitepaper/docs/defence_white_paper_2009.pdf

² 例えば、インドネシアは2024年までに同国の広大な海域の哨戒のために12隻の潜水艦を建造する計画を持っている。シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、韓国、バングラデシュ、パキスタンも潜水艦を導入予定である。中国とインドは新型の原子力潜水艦を建造中で、中国はJL-2戦略核ミサイル搭載用に5隻導入予定である。

2. 戦略指針

白書は、オーストラリアの戦略的利益を、「安全なオーストラリア」、「安全な隣接地域」、と「アジア・太平洋地域の戦略的安定」に見いだしている。とりわけ、直接攻撃からのオーストラリアの防衛が最も重視されている。

次に重要とされているのは、オーストラリアを取り囲む列島線（インドネシア、パプアニューギニア、東チモール、ニュージーランドと南太平洋の諸島）の安定である。この列島線は、オーストラリアに対する直接脅威の源となつてはならないし、また他国がオーストラリアを攻撃するための足場になつてもならない。オーストラリア政府はまた、アジア・太平洋、特にオーストラリアに北方から接近可能な東南アジアの安定にも恒久的利益を持っている。この北方進入路は敵国がオーストラリアに兵力を送り込むためにも使えるし、オーストラリアの貿易と資源輸送路を脅かすためにも使えるからである。

オーストラリアは、インド洋にもより大きな戦略的利益を見だしつつある。白書は、インド洋は重要な貿易路であると共に、エネルギー資源の輸送路でもあり、従って、伝統的安全保障上の理由からも、また非伝統的安全保障の理由からも、今後インド洋に海軍のプレゼンスを強めていくとしている。今後、インド洋は、オーストラリア政府の戦略的思考において、太平洋と同様の重要性を持つことになろう。

白書によれば、以上のような戦略上の利益を守るため、オーストラリア軍の最優先任務は、他国の支援に依存することなく、単独でオーストラリアに対する武力行使を抑止し、撃退することであるとしている。そのためには、経海、経空侵略の抑止を重視した自主防衛力の整備の必要性が強調されている。オーストラリア軍の2つ目の重要任務は、南太平洋と東チモールの安定と安全に貢献することである。3つ目の重要任務は、アジア太平洋地域の紛争に域内各国と協力しながら対処することである。そして4つ目の任務が、国際社会との協同による世界のその他の地域における紛争対処である。

白書は、2030年のオーストラリア軍は、任務の優先度に鑑みて、特に海面下における戦闘能力と対潜能力、洋上防空能力を含む水上戦闘能力、制空能力、戦略攻撃能力、特殊戦能力、情報・監視・偵察能力、サイバー戦闘能力を持たなければならない、と強調している。

3. 装備購入リスト

白書によれば、海軍の装備購入リストの中で最大のものは、オーストラリア南部で建設されることになる12隻の新型潜水艦である。これらは、現行の6隻の *Collins* 級潜水艦より航続距離、経戦能力及び攻撃能力において優れている。白書は、潜水艦への原子力推進の導入については、明確に否定している。

次に大きいのが8隻の新型フリゲートの導入である。現有の *Anzac* 級よりも大型で、最新の潜水艦探知能力を備えている。海軍の潜水艦探知能力は、24機の新型攻撃ヘリの導入によっても高まり、このうち少なくとも8機は艦載機となる予定である。オーストラリアはまた、初めて海上配備型長射程巡航ミサイルも導入する。白書は、スタンダードミサイル6長距離対空ミサイルと高度に調整された統合戦闘能力 (Cooperative Engagement Capability) を備えた防空駆逐艦を3隻取得する現行計画の継続を確認している。また、46機のMRH-90多用途ヘリが導入され、陸軍と共有する。20隻の多用途沿岸戦闘艦が導入され、哨戒艇、機雷施設艇、調査船の役割を引き継ぐことになっている。1万～1万5,000トン級の新型輸送艦1隻と6隻の新型の大型上陸用舟艇の導入によって、洋上から沿岸への上陸能力が強化されることになっている。

空軍については、F-111 と F/A-18 ホーネット戦闘機に替えて、約 100 機の F-35 ライトニング統合打撃戦闘機の導入によって地域での航空優勢を維持する。7 機の高々度長距離無人偵察機と 8 機の新型海上哨戒機が、P-3C オライオン哨戒機に替わって導入される。

オーストラリア防衛における陸軍の役割が三軍の中で最も小さいことは自明だが、白書によれば、陸軍にも新型戦闘ヘリコプターや展開可能な戦闘車が導入されることになっている。

4. 海洋戦略のコスト

白書で明らかにされた、こうした大規模な防衛計画は、様々な面で批判を受けている。まず、予算的裏付けのなさが批判されている。白書は、2018 年まで毎年実質 3%の防衛費増が保証され、以後 2018 年から 2030 年までは毎年実質 2.2%の防衛費増額が提示され、この間、2.5%に固定された物価指数に防衛費をスライドさせるとしている。従って、オーストラリアの防衛費は順調に推移すれば、現行の 220 億豪ドル (約 1 兆 6,000 円) から 2030 年には 382 億豪ドル (2 兆 7,500 億円) に増大することになる。しかし、白書は、調達する各装備の単価を示していない。一方で、白書は、今後 10 年にわたる防衛組織の見直しによって 200 億豪ドルを節約し、主要装備の購入に充てるとしているが、オーストラリア国立大学戦略防衛研究所のヒュー・ホワイト教授はそのような節約が可能なのか疑問を呈している³。1987 年の白書でも海空力の増強が謳われ、*Collins* 級潜水艦や *Anzac* 級フリゲート、F/A-18 ホーネットが導入されたものの、早期警戒機等の導入は実現しなかった。このため、*The Australian* 紙は、政府は過去の教訓に学ぶべきだと警告している⁴。

問題は金だけではない。新型の艦船や航空機の運用には、より多くの要員が必要となる。海軍は現在、乗組員の不足のため 6 隻ある *Collins* 級潜水艦のうち 3 隻しか運用できていない。また、白書によれば、水上艦よりも多くの潜水艦が導入されることになっているが (11 : 12)、これまで潜水艦乗りは海軍の主流派になったことはない。防衛専門家のアラン・ベンは潜水艦部隊の増強は、海軍に思考様式のあり方の劇的な切り替えを迫ることになると指摘する⁵。

さらに、白書は、域内における各国海軍力の動向に対応することを求めているが、このことは、域内における建艦競争につながる可能性がある。これは、1 国の防衛力の強化が他国の防衛力の強化を招き、結果として安全保障が損なわれるという、典型的な「安全保障のジレンマ」の例である。中国人民大学の時殷弘教授は、「中国は、オーストラリアがいわゆる中国脅威論をとることを受け入れないだろう」と批判している⁶。

5. おわりに

今回の白書では、海空戦力の強化が重視されている。中でも海軍が最大の受益者となっている。したがって、今回の白書に見られる最大の特徴は、オーストラリアの将来の海洋戦略を構想したものといえよう。

オーストラリアは「大陸的規模の島国」であり、周囲の地理戦略的環境を鑑みれば、オーストラリ

³ “PM Pushes for Renewed Defence Strength as Asia-Pacific Region Builds Up,” *The Australian*, May 3, 2009. <http://www.theaustralian.news.com.au/story/0,25197,25421770-601,00.html>

⁴ Cameron Stewart, “Military Ambitions,” *The Australian*, May 2, 2009. <http://www.theaustralian.news.com.au/story/0,25197,25415268-31477,00.html>

⁵ Mark Dodd, “More Subs to Mean Big Navy Changes,” *The Australian*, May 4, 2009. <http://www.theaustralian.news.com.au/story/0,25197,25423971-31477,00.html>

⁶ “Australia Tries to Placate China over Navy Expansion,” *Reuters*, May 1, 2009.

アが海洋戦略を重視することは十分理解できる。オーストラリアは、世界第3位の広さとなる815万平方キロメートルのEEZを宣言する一方、インド洋、太平洋、南太平洋の公海上での捜索救難の責任を負っており、その範囲は地球表面の9%に及ぶ。しかも、オーストラリアは、海洋を公道ではなく、依然障壁とみなしている。そのために、経海、経空侵略の抑止を重視した自主防衛力の整備の必要性が強調されている。オーストラリア海軍は、米国が新海洋戦略で打ち出された「地球規模の海洋パートナーシップ」に対してあまり積極的でないとされる⁷。最も緊密な同盟国である米国がより非伝統的安全保障問題に取り組むことを重視しようとしているときに、オーストラリアは逆の方向、つまり大規模な通常型戦争を想定した自主防衛力の整備に力を入れようとしていることになる。

いずれにせよ、今回の白書に示された海軍力重視の防衛力整備の方向性は、ラッド左派政権による軍部の懐柔策という見方があるが⁸、中国の動向を十分に意識したものであり、今後どのように具体化されていくか注目される。

⁷ Chris Rahman, “The Global Maritime Partnership Initiative: Implications for the Royal Australian Navy,” Papers in Australian Maritime Affairs No. 24.
<http://www.navy.gov.au/w/images/PIAMA24.pdf>

⁸ 豪州国防省関係者へのインタビュー。

リンク先

AFP	http://www.afp.com/home/
AP	http://www.ap.org/
Barents Observer	http://www.barentsobserver.com/index.php?language=en&cat=16149
China Daily	http://www.chinadaily.com.cn/
CNN	http://edition.cnn.com/
Combined Maritime Forces	http://www.cusnc.navy.mil/
Commission on the Limits of the continental shelf HP	http://www.un.org/Depts/los/clcs_new/clcs_home.htm
Ecoterra International	http://www.businesspatrol.com/country-links/ecoterra-international,9870.html
Fairplay Daily News	http://www.fairplay.co.uk/
Fairplay International Shipping Weekly	http://www.fairplay.co.uk/
Honolulu Advertiser	http://www.honoluluadvertiser.com/
Information Dissemination Blogspot	http://www.informationdissemination.net/
Jane's Defence Weekly	http://jdw.janes.com/public/jdw/index.shtml
JoongAng Daily	http://joongangdaily.joins.com/
MAKToob Business	http://business.maktoob.com/
Maritime Global Net	http://www.mgn.com/
Maritime Security Centre, Horn of Africa	http://www.mschoa.org/Default.aspx
Nhan Dan	http://www.nhandan.com.vn/english/
Payvand Iran News	http://www.payvand.com/news/
PLA Daily	http://english.pladaily.com.cn/site2/gdefault/2006-03/01/default.htm
Reuters	http://www.reuters.com/
RIA Novosti	http://en.rian.ru/
Shiptalk	http://www.shiptalk.com/
Solomon Star	http://www.solomonstarnews.com/
The Australian	http://www.theaustralian.news.com.au/
The New York Times	http://www.nytimes.com/
The Star	http://thestar.com.my/
Trade Winds	http://www.tradewinds.no/
U.S. Department of Homeland Security, U.S. Coast Guard	http://www.uscg.mil/
U.S. Naval Forces Central Command	http://www.cusnc.navy.mil/
Varyag World.com	http://www.varyagworld.com/
Xinhua (新華社)	http://www.xinhuanet.com/english/
Zee News	http://www.zeenews.com/

海洋政策研究財団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目15番16号 海洋船舶ビル3F
TEL.03-3502-1828 FAX.03-3502-2033

((財)シップ・アンド・オーシャン財団は、標記名称にて活動しています)